

23	受験番号
中	

社 会 その 1（3枚のうち）

多くの人が生活する都市は、働いたり、ものを買ったり、勉強したりするさまざまな機会や場所があります。生活に便利なが多いので、いっそう人が集まり、住宅などが密集して市街地が形成されるようになります。しかし市街地が形成されると、それを維持するために新しい工夫が必要になったり、他の地域とのつながりや関係が重要になったりします。今日は、江戸時代が始まって以来急速に人口が増加した江戸、そして明治以降の東京という大都市を題材に、生活のためにどうしても必要な上水の確保と下水処理の問題、そしてそれらが周辺地域へ及ぼした影響について考えてみましょう。

江戸は、18世紀には日本で一番人口が多い都市になったと考えられています。人が比較的離れて住んでいる農村地域では、上水は近くの川や井戸でまかなうことができました。しかし市街地が形成されると、それに応じた大量の上水が必要になります。江戸の町の中には、上水網が整備されていきますが、初めは周辺の小さな河川を水源とする小規模な用水路しかありませんでした。人口増加につれて、17世紀半ばには江戸から離れた多摩川からたくさんの水を引く玉川上水が開削されました。また江戸の中でも隅田川の東側の本所や深川という地域などでは、井戸や上水が利用しにくく、水を販売する「水売り」がまわっていました。

江戸は、明治時代に東京と名前が変わり、以後ますます多くの人びとが集まるようになりました。市街地が拡大するにつれて、さらに水需要は高まりました。そうした中で、きれいでない飲用水が原因とされる健康被害がたびたび生じたこともあって、費用のかかる新しい上水道の整備が行われるようになりました。また、より多くの水を確保するために東京以外の地域にも水源を求める必要が生じました。明治時代後半、当時の東京府は山梨県の山林を水源林として購入し、現在に至ります。また第二次世界大戦後、多摩川や利根川、荒川の上流に大規模なダムが建設されました。そこに貯められた水が、東京の水道水として利用されています。

次に、下水についてはどうでしょうか。上水同様、農村地域では下水や排泄物の処理も容易でした。しかし住宅などが密集する地域においては、地域の中で処理が完結できなくなります。江戸の町から出る排泄物については、近郊の農村と結びついて処理する仕組みができました。しかし、江戸時代の排泄物処理の仕組みは次第に縮小します。その大きな理由として、排泄物の使用目的について、大正時代以降に代替品が普及し始めたことがあげられます。結果として引き取り手のいない排泄物が余るようになり、その処理はなかば公営化して行政が費用を負担せざるを得なくなります。余った排泄物のかなりの部分は、東京湾の沖に海洋投棄されるようになりました。第二次世界大戦が激しくなると排泄物の収集も滞り、人びとは自宅の庭に埋めたり、近くの川に捨てたりしたこともあったそうです。行政が主導して下水道が造られた地域もありますが、その範囲は限定されていました。

排泄物処理に加えて、市街地では雨水の排水の問題も深刻になりました。大正時代の東京を歩き回った永井荷風という作家は、以下のようことを書いています。

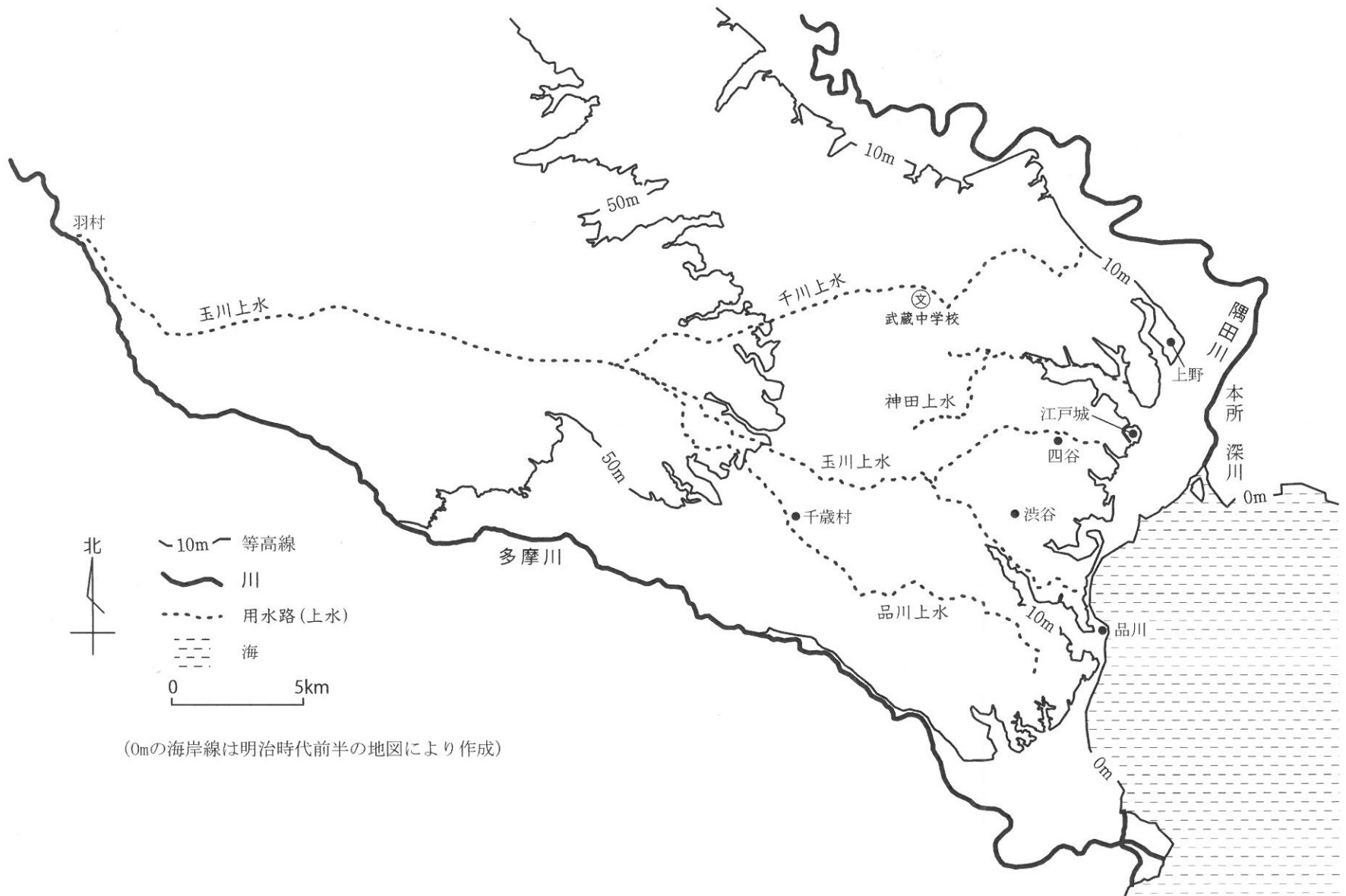
「東京を流れる溝川（小さな水流）には美しい名前がついているものがあり、かつては清流であったかもしれないが、今は下水に過ぎない。小さな下水は合流して道に沿った麓を流れる内に広がる。下流では船を浮かべるほどの川になるものもある。下水や溝川が流れている低い場所は、梅雨や秋の長雨の大雨の度に、高い場所にある住宅地から滝のように落ちてくる濁水が集まって氾濫する。川沿いには貧しい人びとが多く住んでおり、家ごと水につかり家財も流されるなど被害は大きい。」

戦後の市街地のさらなる拡大に伴い、排泄物の処理と雨水の排水の両方を担う下水道が整備され、その稼働地域は広げられていきました。下水道の建設費用節約のため、荷風の言う溝川やかつての農業用水路などを掘り下げて蓋をし、下水道に転用することも行われました。

以上のように、江戸・東京に人口が集中して市街地が拡大するにつれ、都市生活に必須の施設や設備は、次第に公共的サービスとして整備拡充されていきました。とはいえ、公共の施設や設備は、その建造だけでなく維持管理のための費用が必要です。また大都市では、周辺地域の資源を利用する必要も生じます。都市に暮らすことは便利で快適かもしれませんが、しかし、多くの人が集まって生活するための技術・工夫について考え、そのためにかかる費用の総計についても検討することは必要ではないでしょうか。

社 会 その2（3枚のうち）

資料 江戸周辺の河川と上水



(0mの海岸線は明治時代前半の地図により作成)

問1 江戸時代に三都と呼ばれた都市のうち、江戸以外の二つを答えなさい。

--

--

問2 本所や深川で、上水や井戸水が利用しにくかった理由は何ですか。資料の図も見ながら説明しなさい。

--

問3 明治時代にたびたび起こった健康被害は、当時の世界各地で発生し日本にもおよんできたものですが、このような健康被害は一般に何と呼ばれますか。漢字3字で答えなさい。

23	受験番号
中	

社 会 その3（3枚のうち）

問4

(あ) 江戸時代の排泄物処理の仕組みとはどんなものですか。説明しなさい。

(い) 大正時代に普及し始めた代替品とは何ですか。

問5 下の文章は、東京府北多摩郡千歳村（現在の東京都世田谷区西部）に住んでいた徳富蘆花という作家が1912（大正元）年に書きました（分かりやすく内容を要約しています）。人口が集中する大都市周辺の農村で、栽培される作物が変わってきたという内容です。なぜ変わったのか、その理由を説明しなさい。

「東京がだいぶ攻め寄せて来た。ここは東京の西方10kmほどにあるため、東京の200万の人口の影響が村に及ぶのは自然のことである。もともとは畑で麦が多く作られていたが、それをつぶして竹林にしてタケノコをとったり、大麦小麦よりキャベツや白菜に力を入れたりする様になったり、要するにむかしの純農村は都会附属の菜園になりつつある。」

問6 永井荷風が指摘していることは、近年の気候の傾向の変化によってあらためて都市における大きな問題となっています。その問題について説明しなさい。

問7 都市部に人口が集中することにより、経済的・社会的負担が発生している事例を、「大規模な上下水道の整備が必要となる」以外に考えて、どのような負担があるかを含めて説明しなさい。